

始まった！人工透析

9年越しの悲願かなって



島民の悲願だった人工透析機を導入しての治療が開始された。現在の患者はまだ1名だが、臨床工学士や看護師も新たに配置され、今後患者が増えても、島を離れずに済む体制がやっと整えられた。

三宅村中央診療所は、人工透析機を導入しての治療を、3月20日から始めた。当初は、初期診療で在京者も臨時の透析診療も症状によって受け入れ体

内地の看護師等の支援を受けて3月下旬から人工透析の治療を始めた中央診療所

「切望する会」は解散



サンライズで役員会

4月2日、「人工透析を切望する会」の解散決定。平成23年6月に故・池田金好会長、平松一成・浅沼徳広副会長、佐藤就之事務局長選出、平成23年に村に「人工透析設置の早期導入に関する要望書」を提出などして実現した。

制を取った。また今年の正月期間もぜひ故郷で過ごしたいという在京者がいたら受け入れるからどうぞと、当ネットにも村からの連絡があったが、急なことで残念ながら帰島を叶えられなかった。4月より人工透析診療も本格化している。現在、沖山臨床工学技士が昨年配置された。沖山技士は、阿古出身者で、内地で勤務しベテラン。また、看護師も東京都の支援で広尾病院から2名が1年間派遣され、中央診

現在の患者数は1名。現在、患者は1名。在京者も9年の長きにわたる待ち望んだか、高齢化、介護条件、家屋修理問題など抱え簡単に帰島できない。また帰島を望み、無念の中亡くなった方もいて、なぜ速くできなかったとの怒りの声も寄せられているが、櫻田村長の努力を多としたい。

看護師も研修を受け万全の体制。安心して治療ができる。

現在の患者数は1名

伊豆諸島・小笠原諸島の東京愛らんどフェア「島じまん2014」が浜松町駅下車竹芝桟橋で5月24日(土)に行われる。オープニングは、9時30分から、三宅島神着木遣太鼓は午後二時半から。25日(日)は、伊ヶ谷獅子舞が十時半に行われる。三宅は商工会など参加して盛会である。皆さまの参加を期待しています。

アカコッコ館でイベント

アカコッコ館(野鳥の会)のフェスティバルが4月から6月末までイベントが行われている。(問合せ先0994・60410、HP)

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○神楽坂青空フェスタ
5月18日(日) 予定
12時～18時

神楽坂商店街にて
明日葉やくさやなどの三宅島特産品の販売や、ふるさとネットの広報活動を行います。皆様お誘い合わせの上お越し下さい。お待ちしております！

○世話人会のお知らせ
6月7日(土)
18時30分～

喫茶ルノアール会議室にて(巣鴨駅前)

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話：03(3963)5678

FAX：03(3963)5697

担当：栗原

TOPICS

「島じまん」5月24日

伊豆諸島・小笠原諸島の東京愛らんどフェア「島じまん2014」が浜松町駅下車竹芝桟橋で5月24日(土)に行われる。オープニングは、9時30分から、三宅島神着木遣太鼓は午後二時半から。25日(日)は、伊ヶ谷獅子舞が十時半に行われる。三宅は商工会など参加して盛会である。皆さまの参加を期待しています。

ふるさとネット 2014年度総会

島内活動の強化など決定

ふるさとネットは、4月12日に巣鴨の喫茶ルノアール会議室で総会を実施した。この中で2013年度の活動報告を行うとともに、および14年度の活動方針を決定した。この中では、新報の発行を通じた新たな情報提供や「ふれあいコール」の継続のほか、島内での活動強化などが示されている。

2013年度の報告

【4月】

- 18日 17日の震度5強の地震取材 (NHKTV、読売・毎日新聞)
- 21日 DTPA 定例会 (新報編集)
- 24日 池田金好副会長死去 (28日に告別式)
- 27日 ふるさとネット定例総会
- 29・30日 震度1弱の地震・雄山噴煙放送

【5月】

- 1日 三宅島新報第45号発行
ふるさとだより No. 37 発行
- 19日 神楽坂あおぞら市にて物産店出店

【6月】

- 8日 世話人会
- 16日 DTPA 定例会 (新報編集)

【7月】

- 1日 三宅島新報第46号
ふるさとだより No. 38 発行
- 4日 事務局役員会議

【8月】

- 25日 DTPA 定例会 (新報編集)
島市出店
- ☆ふれあいコール (ふるさとネット、DTPA チーム) 随時

【9月】

- 1日 三宅島新報47号発行
ふるさとだより No. 39 発行
- 6日 福島民友新聞取材
- 14日 日本応用心理学会第80回記念大会 (日体大)
「三宅島から福島へエール」

—2000年三宅島雄山噴火の教訓を活かして—

21日 世話人会

【10月】

- 6日 神楽坂あおぞら市
- 20日 DTPA 定例会 (新報編集)

【11月】

- 1日 三宅島新報48号
ふるさとだより No. 40 発行
- 11～13日 住民懇談会 (坪田・三宅・阿古)
- 16日 社会貢献学会・授賞式
- 22・23日 植林活動ボランティア来島

23日 島市出店

28日 三宅島村議懇談会

30日 世話人会

【12月】

- 8日 DTPA 定例会 (新報編集)
- 14日 三宅島支援者の集い (おきみくら)

【1月】

- 1日 三宅島新報49号
ふるさとだより No. 41 発行
- 24日 世話人会

【2月】

- 16日 DTPA 定例会 (新報編集)

【3月】

- 1日 三宅島新報第50号
ふるさとだより No. 42 発行
- 2日 島市出店
- 8日 東京新聞取材
- 15日 世話人会

新報発行や「ふれあいコール」を継続

支援者との交流の拡大も

1 三宅島噴火災害の全国情報発信活動について
「三宅島新報」(編集作業・DTPA DeskTop Publishing Assistants・パソコン作業のお手伝い

をする団体) 及び「ふるさとだより」は、隔月発行することができた。三宅島新報は、8年間50号記念号を3月に発行した。発行部数は3千部に

およぶ。05(平成17)年2月1日の全島避難解除後、直ちに準備に取り掛かり06年1月1日に第1号が発行された。当時の未帰島者は

1千389人、世帯数318も「帰りたいけども帰れない島民」がいた。従って島内人口は減少した。その内、06年ネットでは未帰島・在京者221世帯、約500人と連絡が取れ、更に全国の三宅島出身家族160世帯、約500人が支援をした。約1千人・400世

帯の人々に「三宅島新報」など島情報を送り届けた。更に帰島した三宅島全世帯に1千600部を全戸配布。三宅島在京者を含む三宅関係者に約600部(現在、人口は1千人減少のは、人口は1千人減少のままであるが世帯数は、1千700台に回復。一部帰島があるものの、高齢化、施設入所、家族と

平成26年度役員

会長 佐藤就之
副会長 酒井一豊 光安千久子
事務局長 栗原未帆
事務局次長 糸井真由美
会計事務 有本香保子

世話人 山田貴久 山尾啓予 吉田信行
永山詩織 菊池忠男 勝見吉雄 京町
増田菜穂子 横井和之 山中恵美子
監査 大石陽子 小林舞

(順不同・敬称略)

※事務局長の交代、および世話人に
山中恵美子さんが加わることが、
総会で承認されました。

の同居、死亡などで減少し流動的であり、三宅村・東京都も災害支援策を今年度で打ち切る。発送名簿を点検中）
他に、4500部は全国の被災地、専門家、マスコミ、支援者等配布と手配りやイベントで配布し三宅島の全国発信の役割の中心的役割を担っている。
引き続き隔月発行できるようにしていきたい。
印刷について、第49号では、板橋区ボランティアセンターや外部に依頼。ホームページの更新も定期的にを行うことができた。今後は、過去の新聞記事などを掲載していきたい。

たい。
2「ふれあいコール」について
事務局チーム、DTP Aチームの2チームに分かれ、活動した。
連絡が取れなくなっている方がいるため、名簿の整理を行っていく。「もうかいて来ないで欲しい」といった否定的な意見はなかったため、次年度も時期を定めて行っていく。
訪問活動については、酒井副会長が定期的に近隣の方のもとへ通い近況をお話している。
3 支援層と交流の広がりについて
あおぞら市への参加、

齋藤塾の勉強会への参加などを通じて、新たな人脈形成を果たした。
島内における「島市」出店時の売り上げは、高齢者支援に活用したい。
12月に「三宅島支援者の集い」を開催。マスコミ関係者や行政の方など、計24名が参加。今後、12月に「三宅島支援者の集い」の開催を検討する。
4 寄付・活動等の協力について
今年度も皆さまからの温かいご支援をいただき、三宅島新報の発行、訪問活動、他被災地との交流など、活動を広げることができました。感謝申し上げます。寄付者・52名 合計金額・65万3千500円
5 島内での活動の強化について
三宅島復興・再生の展望は今、未知数である。島民が先頭に立ち課題を明らかにすること、行政、支援者、専門家などの協力を得て、取り組んでいく努力を一層強化していく。

事務局長が交代



加藤さおりさん



栗原未帆さん

昨年度ふるさとネットの事務局長を務めていた加藤さおりさんが結婚のため退職し、栗原未帆さんが後任

を務めることになった。加藤さんは向上高校を卒業したのち、DTPAのメンバーとして新報の編集や活動のお手伝いをしたことをきっかけに佐藤就之会長と出会った。

加藤さんは「島にも何度か足を運び、行くかさを感じました」と話した。また新事務局長の栗原さんは「至らない点はあると思いますが、事務局で協力していきたいと思っています」と意気込みを話してくれた。

13年度決算・14年度予算

【収入の部】

科目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
寄付金	350,000	653,500	550,000
活動収入	300,000	226,596	220,000
雑収入	10,000	10,110	0
前期繰越金	144,320	144,320	129,347
収入合計	804,320	1034,526	899,347

【支出の部】

科目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
広報費	600,000	745,676	740,000
訪問活動費	3,000	0	0
活動費	150,000	60,111	60,000
会議費	19,000	15,350	15,000
事務備品費	0	0	1,000
通信費	30,000	33,850	33,000
渉外費	0	0	0
雑支出	2,320	50,192	50,347
支出計	804,320	905,179	899,347
次期繰越金	0	129,347	0

三宅島と私 (雑記) 成島ますみ

交流が研究の支えに



帰島直後から皆さんお馴染みの医師・看護専門家及川裕子先生グループの一員として活躍。伊豆福祉館で交流

以前、三宅の中央診療所に支援看護師として勤務し、その後、島の高齢者などの状況を研究している成島ますみさんに、島とのかかわりなどについて寄稿していただいた。成島さんはその文章で、このような活動を通じ知り合った島の方々が、研究の支えになっていることを伝えてくださった。

プロフィール

- ・看護専門学校に20余年勤務後、平成20年日本赤十字看護大学大学院修士課程入学
- ・平成22年に同大学院修了
- ・北海道北見市在住、日本赤十字北海道看護大学講師
- ・桜美林大学大学院博士課程在学中

ご寄付者名

吉田信行様 大石陽子様
柚木裕子様 板倉美紀子様
永井タケ子様

(3/15～4/16)

ご協力ありがとうございます。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

早いもので三宅島に
い出して5年余が経ちま
す。災害関係の医師から
依頼され、平成20年の暮
れからお正月に掛けて中
央診療所に支援看護
師として勤務し、その
後何度か平成21年9月
まで診療所に勤務し

ました。ガスのレベルや
地域等の放送が毎日何
度も聞こえていました。私
は当時日本赤十字大学大
学院国際・災害看護学修
士課程の学生で、勤務を
終了した9月に三宅島の
高齢者の方々に協力を頂
き、それを基に修士論文
を作成しました。
お陰様で現在は、看護
大学に勤務し学生を指導
しつつ国からの支援を得
て、帰島なさった方々と
在京の方々にお話を伺

沢山の親切に感謝

い、それを研究論文にま
とめています。
この5年間で島は随分
緑が濃くなったように感
じています。島への飛行
機が4月から調布飛行場
発着で3便就航すると記
事がありました。船も高
齢者には階段が辛いだろ
うと思っていました。が、
エレベーター付きの船が
就航すると聞いていま
す。また、長年言われて
いた人工透析も可能にな
るようですし、島が少し
ずつ前進していることを
感じます。

東京に近く緑豊かで穏
やかな島は、都会で疲れ
た人にはかけがえのない
空間となりますから大事
にして欲しいと思いま
す。明るく大らかな島
の人々のふれあいやどこ
にいても聞こえる鳥の
声は他の島にはない魅
力です。広い空と海、新
鮮な魚介類、明日葉や
竹のお料理など

編集後記

今年の3月に新報50号
が発行され、私たちもD
T P Aと三宅島の関係の
はじまりから今日に至る
までを振り返る機会が持
てました。
島の現状はまだ厳しい
部分もありますが、これ
からも新報の発行をはじ
め、D T P Aの活動が島
民の方の力になれたらと
思っています。

(D T P A一同)